

Web ページ評価の視点と基準

上田修一（慶應義塾大学文学部） 久野高志（作新学院大学女子短期大学部）
安形輝（亜細亜大学） 石田栄美（慶應義塾大学大学院）

【抄録】 全世界で 21 億ページを超えた Web ページは、現在では有力な情報メディアとなっている。量的増大により、かつてのような Web ページへの質的な面への単純な批判はみられなくなり、サーチエンジンなどによって統一されたアクセスが可能な Web ページの情報源としての評価は高まりつつある。これら Web ページに対して、様々な観点からの基準が作られるようになってきている。米国で行われている図書館を中心とした Web 情報源の評価基準やアクセスを増加させるためのノウハウなどを分析して、評価基準について大きく三つの視点を導き、さらに評価項目を設定し、情報源としての評価との関係を示した。

I 情報源としての Web ページ

世界中で 20 億ページを超え、さらに増加し続ける Web ページは、日常生活にまで浸透している。ホームページを作り、維持するといった利用から、情報収集手段、あるいは掲示板やチャットなどによるコミュニケーション手段としての利用、さらにはゲームに至るまで多岐にわたる利用がなされている。Web ページの情報源としての利用は、WWW 普及の初期の頃から行われてきたが、Web ページの全体量が増えるにつれて、情報源となりうるページ数も増加し、最近では印刷体と並ぶ有力な情報源となってきている。

従来から Web ページには、質に関して批判があったが、量的な増大とともに質の高い Web ページの絶対量が増加し、単純な批判は的外れとなっている。そして、一方では、Web ページの評価に関心が集まり初めている。例えば、電子商取引の分野では、有料のサイト評価が始まっており、例えば、リンクマネージ社は、モニターによる評価や評価基準による評価を提供している¹⁾。

以下では、情報源として有用な Web ページを自動的に判定するための基礎調査と

して、Web ページ評価の基準を検討する。

II 情報源評価の前提

Web ページの評価を行う前に対象とする範囲を設定しておく必要がある。

(1) 評価対象

評価の対象を Web ページとするかサイト全体とするかが問題になる。評価サービスではサイトを対象としたものが多い。ここでは、個々の Web ページを対象とするが、既存の評価の基準を集め、検討する際にはサイトの評価基準も考慮する。

(2) ページタイプ

WWWには、通常のページの他に、リンク集や掲示板など様々なタイプのページが存在している。これらのページタイプの分類とその自動判定方法については、既に発表した²⁾。ページタイプは表 1 のように分類した。この中で、リンク集は情報源となるものであるが、ページタイプとして自動判定が可能である。掲示板なども情報源となりうる、以下では、テキストを中心とした標準ページのみを対象とする。標準ページはマルチメディアを除く Web ページのほぼ半数を占めている。

表1 ページタイプ

Webページの特徴からみた区分	ページタイプ	比率
テキスト	標準	51.3%
	日記	10.8%
	表紙	10.4%
リンク	リンク集	3.2%
	目次	10.8%
入力	掲示板	2.2%
	チャット	2.0%
	入力フォーム	2.0%
マルチメディア	画像	-
	その他のマルチメディア	-
計		100.0%

(3) 国

日本国内の Web ページを主体とする。

III 伝統的な評価基準とその問題点

1994年にStokerとCookeは、印刷版と比較しつつ、ネットワーク上の情報源の評価基準として、(1)権威、(2)出自、(3)範囲と扱い方(目的、収録範囲、新鮮度と改訂方法、正確さ、客観性、読者)、(4)形式、(5)排列、(6)技術的側面、(7)価格と利用可能性、(8)利用者援助をあげている³⁾。これらは、印刷版レファレンスブックの評価基準から導かれたものであった。また、当時はまだ、Web ページは「ネットワーク情報源」として捉えられていたことが示されている。

1999年にAlexanderらは、伝統的な評価基準として(1)権威、(2)正確さ、(3)客観性、(4)カレントであること、(5)収録範囲、(6)利用可能性、(7)価格と利用可能性、(8)利用者援助をあげられてきたが、これらはそのままではWeb ページには適用しがたいと主張している⁴⁾。例えば、「権威」は、その主題について適切な著者によって書かれているかによって判断するのであるが、印刷版の場合は、著者の経歴や業績によって判断できるが、Web ページの場合は著者名が記載されていないことが多く、記載されていたとしても、その主題に適切な著者がどうかを

知るすべはない。

すなわち、図書館員はレファレンスブックの評価に用いていた基準をそのまま Web ページの評価に適用しようとしてきたが、Web ページの性格が明らかになるにつれ、齟齬が生じてきた。Web ページには Web ページのための評価基準が必要となる。

そこで、これまでの Web ページの評価基準に含まれる評価項目と Web ページのアクセスを増やすために必要とされている項目とを洗い出し、これらをまとめて、Web ページの評価の枠組みを作り、そこから評価項目を導き、被験者に Web ページを見せ、評価項目の重要度をみることにする。

IV 評価項目と視点

(1) Web ページの情報源としての評価

Smith は、インターネット上の情報源の評価基準のリンクページを作成しており、この中には、個人や図書館が作成した 58 種の基準がリンクされている⁵⁾。そして Smith は、これらをまとめて表 2 のような評価項目を作っている⁶⁾。

表2 Smithによる評価項目

分類	項目
範囲 (scope)	主題の広がり(Breadth)、詳しさ(Depth)、カバーする年代(Time)、形式(Format)
中味 (Content)	正確さ(Accuracy)、権威(Authority)、新しさ(Currency)、類似のものがない(Uniqueness)、リンク(Links)、文章の質(Quality of writing)
デザイン(Graphic and multimedia design)	
目的(purpose)	対象利用者(Audience)
評価の仕組み (reviewing)	
利用者支援 (Workability)	使いやすさ(User friendliness)、コンピュータの環境(Required computing environment)、探索機能(Searching)、一覧機能(Browsable ability and organisation)、対話機能(Interactivity)、アクセス性能(Connectivity)
支払う費用(Cost)	

(2) アクセスを増やすための項目

一方、国内の Web ページ作成者向けのガイド 12 種に記載されている項目を分析したものが表 3 である。これらは、主として

評価 サイト	中味					閲覧性							付加価値				接続			
	独自 性	コンセ プト	正確 さ	量	更新 頻度	読みや すさ	リン ク	タイ トル	ページ 構成	統一 性	操作 性	多言 語	掲示 板等	デー タ ベース	ソフト ウェア	リン ク集	軽快 さ	画像、音声 等少	ページが 小さい	閲覧者の環 境への配慮
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12	4	4	1	1	4	2	4	5	5	3	2	1	6	2	1	3	4		2	3

1 AccessUP!<http://www.accessup.org/>, 2 アクセスアップヒント集<http://www.interq.or.jp/sun/hp-user/>
3 アクセス向上委員会<http://oisan.csidenet.com/akusesu.htm>, 4 アクセス向上大失敗<http://www.d1.dion.ne.jp/~igros/>
5 ACCESS向上に効果のあるサーチエンジン<http://www.alpha-net.ad.jp/users2/michiok/access/>, 6 Excellent<http://excellent.oc.to/>
7 スバリ！ ！ 見てもらえるホームページの作り方<http://www.asahi-net.or.jp/~LE9S-ICKW/how_html>
8 必見！ 人気サイトになるためのノウハウ<http://www.page.sanet.ne.jp/yokotosi/>, 9 ホームページにきてもらう方法<http://www3.wind.ne.jp/en/access/>
10 ホームページマスター養成講座<http://www.nagae.com/>, 11 見る人に優しいウェブ作成<http://www03.u-page.so-net.ne.jp/sc4/ken_yuu/www.html>
12 YAHOO登録によるアクセス向上大作戦<http://village.infoweb.ne.jp/~fwja2720/y-msn/>

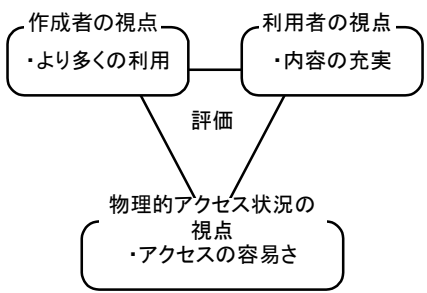
アクセスを増やすための観点から考えられたものであって、情報源となるページを想定したものではない。しかし、両者には共通する評価項目が多い。

これらを検討し、Web ページの評価について作成者、利用者、物理的アクセス条項

(3)物理的アクセスの視点

当該 Web ページにアクセスする際の快適さに関わる評価項目である。ページのデザインに関連し、量や利用者のコンピュータ利用環境への配慮などが含まれる。

これら三つの視点のうち、作成者と利用者の視点に即して、15 項目の評価基準を選定した（表 4 の評価項目）



V 評価項目と情報源との関係

次に、被験者に web ページを見せ、これらの基準による評価実験を行った。被験者は慶應義塾文学部図書館・情報学科の学生 26 名である。

評価基準として用いる項目とともに設問の一つに「このページはよい情報源である」を加えておき、この項目と評価基準との相関を調べた。

この結果から、「このページはよい情報源である」と強く関連する評価項目として、「作者に専門の知識がある」(0.52), 「詳しい内容である」(0.51), 「内容が正確である」(0.50), 「テーマがわかりやすい」, 「テーマが明確である」(0.48)があげられた。

これは、学生による評価であり、さらに広い層を対象とした調査が必要である。

の三つの視点から整理した（表 4）

図 1 Web ページ評価の視点

(1) 作成者の視点

当該 Web ページに対するアクセスを増加させるための評価項目である。これには Web ページの構築に関わり、テーマの独自性、明確さなどが含まれる。

(2) 利用者の視点

利用者が閲覧する際に何らかの情報を得るの必要な項目である。内容の充実が大きく関わり、正確さ、速報性などが含まれる。

表4 評価項目

Smithの項目	アクセスの増加	評価項目	視点
	量	量が豊富である	作成者の視点
使いやすさ 一覧機能	操作性	見やすくするための工夫がある	
「デザイン」	ページ構成 タイトル 統一性	ページのデザインがよい ページタイトルが適切である ページ内のテーマが統一されている	
リンク	リンク リンク集	他のページへのリンクが多い	
対象利用者			利用者の視点
類似のものなし	独自性		
	コンセプト	テーマがわかりやすい テーマが明確である 詳しい内容である	
権威		作者に専門的な知識がある 信頼できる作者である	
正確さ		内容が正確である	
新しさ		最新の内容である 定期的に更新されている	
文章の質		正しい日本語でかかれている	
アクセス性能	軽快さ		物理的 アクセス の視点
	画像, 音声等少		
	ページが小さい		
探索機能	データベース		その他
対話機能	掲示板等		
「評価の仕組み」, 「支払う費用」			
	多言語, ソフト ウェア		

【引用文献】

- 1)WEB-SIS@リンクマネージ. <http://www.linkm.co.jp/service/websis_t.html> [2000-08-30]
- 2)久野高志; 安形輝; 石田栄美; 上田修一. Web ページのタイプ判定法. 2000 年度日本図書館情報学会春季研究大会発表要綱. p.55-58(2000)
- 3)Stoker, David; Cooke, Alison. Evaluation of Networked Information Sources.<<http://omni.ac.uk/agec/essen.html>>[2000-07-11]
- 4)Alexander, J. E. Tate A.T. Web wisdom : how to evaluate and create information quality on the Web. Mahwah, Lawrence Erlbaum Associates, 1999.156p.
- 5)Smith, Alastair. Evaluation of information sources <<http://www.vuw.ac.nz/~agsmith/evaln/evaln.htm>>[2000-09-30]
- 6)Smith, Alastair. VUW Department of Library and Information Studies, New Zealand. Criteria for evaluation of Internet Information Resources. <<http://www.vuw.ac.nz/~agsmith/evaln/index.htm>>[2000-09-30]